

こどもまんなかワークショップ 実施報告書

令和 8 年 8 月

横手市健康福祉部子育て支援課

1.開催の目的

こどもや若者が自分の意見を言うことができる機会をつくり、その意見を横手市が行う取り組みに反映させていくため夏休み期間中にワークショップを開催する。

中学生の視点から「住みたいまち横手」の未来を考え、こどもまんなかの横手市を創っていくための具体的なアイデアを出しあう。

あわせて、「横手市こどもの権利宣言(令和7年10月改定)」についても、こども達に認知され、浸透していくよう周知を図る。

2.開催概要

◇開催日時 令和8年7月29日(水)13:30~16:20

◇開催場所 横手市生涯学習館 Ao-na スタジオ NEMATTE かま蔵

◇対象者 市内の中学校2年生と3年生 28人

◇講師 まちづくりファシリテーター 平元 美沙緒氏
(秋田ファシリテーション事務所)

◇テーマ 住みたいまち横手を描く「横手ミライ会議」

◇内容 中学生が考える、住みたいまち、安心して住み続けられるまちとはどんなまちか、理想のまちの姿を考え具体的なアイデアを出しあう。自分たちの描いた横手市になるために、グループごとに用意してある大きな地図の上を移動しながら、自分たちのまちの課題や、解決策などについて付箋を使用して意見の記録や整理を行う。話し合われた内容をグループの代表者が発表する。講師は各グループの発表をまとめ全体共有を行う。

◇当日のスケジュール

13:30 開会、オリエンテーション(主催者挨拶・趣旨説明)

13:45 こども計画と横手市こどもの権利宣言について説明

14:00 アイスブレイク(チームビルディング)

14:15 ワーク① 自分たちの街の課題を考える

14:50 ワーク② 課題を解決するためのアイデアを考える

15:30 発表・まとめ(各グループ2分で発表)

16:00 ワーク③ 横手の未来像を考える

16:20 ふりかえり・講評・閉会・参加者アンケートへの記入

3.実施方法

- ・4人一組のグループに分かれて話し合い、発表を行う。

- ・ワーク①

「横手のここが気になる」「モヤモヤチェック」として、あらかじめ用意された仮想の地図(ガリバーマップ)の上を歩きながら、自分たちの身近な7つの場所(学校・買い物・交通・遊び場・イベント・居場所・働く場)と情報発信について課題を話し合い、記録係がふせんに書いて貼る。

- ・ワーク②

各グループがワーク①で貼ったふせんを見ながら、それぞれの場所の課題を解決するアイデアを話し合い、ふせんに書いて貼る。

- ・発表・まとめ

各グループ2分以内で発表。ファシリテータが意見をまとめ、相互理解を図る。

- ・ワーク③

こども計画の「基本目標」と「施策」が書かれた紙の下部に、「住みたいまち横手」のイメージに近いものを選び、その理由をふせんに書いて貼る。
横手市の未来について考える時間とした。

4. ワークショップの様子

【ワーク①】 自分たちの街の課題を考える

【ワーク②】 課題を解決するためのアイデアを考える

◎ガリバーマップを使って7つの場所(学校・買い物・交通・遊び場・イベント・居場所・働く場)と情報発信の分野を移動し、課題と解決アイデアについて話し合った。

◎各項目の意見まとめ

① 学校

【課題】

生徒数の減少や他校との交流機会の少なさ、冷暖房設備が未整備の教室や廊下、バリアフリーの不足、いじめ、進学校・部活動の少なさ、夏季のスクールバス未運行区間、備品・校舎の老朽化など、学習環境全般にわたる課題が多く挙げられた。

【解決アイデア】

学校の魅力を SNS で発信して生徒数の減少に対応するとともに、他校との交流イベントの開催を求める声が多かった。設備面では、エアコン設置や補助金活用による冷暖房・バリアフリーの整備が求められた。また、部活動に関するアンケートの実施や同好会の設立、夏季スクールバスの試験運行、備品の寄付募集や校舎のリフォームなどのアイデアも多く提案された。

② 買い物

【課題】

大型ショッピングモールや店舗数の少なさ、コンビニへのアクセスの悪さ、物価の高騰、閉店店舗の増加など、日常的な買い物環境の不便さに関する意見が集中した。流行りの商品が手に入りにくいという声も見られた。

【解決アイデア】

市民アンケートによるニーズ把握を前提に、ショッピングモールやアウトレットの誘致を求める意見が多かった。コンビニは 1km 圏内に 1 件を目安に増やすことが提案された。また、補助金による物価対策や、閉店店舗の跡地を安価で活用できる仕組みづくりも求められた。

③ 交通

【課題】

電車・バスの本数の少なさや交通系 IC カードの未対応、冬道の狭さや道路・歩道の未整備など、公共交通と道路環境の両面で課題が多く挙げられた。移動手段の少なさが生活全般の不便さにつながっているという意識が強く見られた。

【解決アイデア】

電車・バスの本数増便や交通系 IC カードの導入、市営でのバス運行を増やすなどが提案された。道路・歩道の整備やロードヒーティングの導入、貸し出し用自転車の整備なども提案された。また、交通ルール啓発イベントの開催やごみ拾い活動の実施など、市民参加型の取り組みも挙げられた。

④ 遊び場

【課題】

屋内遊び場や若者向け施設の不足、公園の老朽化・管理不足、廃校や空き家

の未活用など、中学生が気軽に楽しめる場所の少なさへの不満が多く見られた。市外に施設が集中しており、地元での選択肢が限られているという声も挙がった。

【解決アイデア】

空き地・廃校・空き家・未使用体育館を活用した遊び場の整備を求める意見が多かった。体育館の無料開放や、中学生以上も楽しめる施設の新設も提案された。古い公園の遊具を新しいものに更新し、映画館や本屋などの文化施設の誘致を望む声もあった。

⑤ イベント

【課 題】

担い手・参加者不足によるまつりの縮小、伝統を受け継ぐ若者の減少、春・秋のイベントの少なさ、屋台の種類の少なさ、イベント情報の一元化不足など、地域行事の活性化に関する課題が多く挙げられた。

【解決アイデア】

学生ボランティアの活用やこどもへの伝統体験機会の提供により、担い手不足の解消を図ることが提案された。若者向け音楽イベントや春夏秋冬それぞれのお祭りの開催、多国籍料理を集めたフードイベントなど、新しい形のイベント創出を求める声も多かった。また、イベント情報を一元化して発信するプラットフォームの整備も求められた。

⑥ 居場所

【課 題】

体育館の予約の煩雑さや公共スペースの少なさ、空き家の増加、熊の出没による安全面の不安など、こどもや若者が気軽に集まれる居場所の不足が課題として挙げられた。Ao-na のような気軽に集える居場所を求める声も見られた。

【解決アイデア】

予約不要で自由に使える体育館の整備や、ショッピングモールへのフリースペース併設など、気軽に立ち寄り他の学生と交流できる場所の創出を求める意見が多かった。空き家の活用やイベントスペースへの転用、持ち主がいない空き家物件の国有化も提案された。熊対策としては、生息環境の整備や山の緑化推進が挙げられた。

⑦ 働く場

【課 題】

企業を知る機会が少ない、職場体験の受け入れ先が少ない、大企業の不在、市外への企業集中、働き手不足など、若者が横手市で働くイメージを持ちにくい環境への課題意識が強く見られた。「人口減少→企業流出→さらに人口減少」という負のスパイラルへの危機感も表明された。

【解決アイデア】

企業説明会や職場体験の充実、中学校への企業訪問など、若いうちから働くことに触れる機会の拡充を求める声が多かった。横手の魅力を活かした新規事業の創出やクラウドファンディングの活用、工場・企業誘致のための土地整備、給与水準の向上なども提案された。

⑧ 情報発信

【課 題】

告知・宣伝の少なさ、SNS を活用しきれていない、高齢者には SNS での情報が届きにくい、デリバリーサービスの未整備など、横手市の情報が市内外に十分に届いていないことへの課題が挙げられた。

【解決アイデア】

横手市公式 SNS(インスタグラム等)を活用した県外への積極的な情報発信や、有名人・インフルエンサーを活用した宣伝を求める声が多かった。高齢者向けには SNS 説明会の開催や、わかりやすい情報発信の工夫が提案された。

また、テイクアウト対応店舗の拡充やデリバリーサービスの導入検討も挙げられた。

【ワーク③】 横手の未来像を考える

「住みたいまち横手」のイメージに近い施策を選び、その理由を書いて貼る。

◎各項目の意見まとめ

| | |--------------------------------| | 基本目標Ⅰ こども・若者の声や権利を尊重し学びと成長を支える | |--------------------------------|

こどもや若者の意見をまちづくりに反映させることへの期待が最も多く見られた。アンケートやワークショップの継続・拡充を通じて意見が尊重される環

境をつくることが重要だという声が共通していた。

また、安心して学び過ごせる環境やこどもの居場所として、「わからないことが聞きやすい」安心できる居場所・学習環境の整備を強く求める意見があった。

基本目標Ⅱ こども・若者が希望を持って大人になれるよう支える

こどもや若者が希望を持って成長できる環境が整うことで、横手市への定住・移住者が増え、人口減少や少子高齢化の防止につながるという意見が多く見られた。多様な体験・活動の機会を増やすことや、若者が地元で働ける就労環境の整備や結婚・新生活への支援が、将来の横手市の活性化に不可欠だという意識が共通していた。

基本目標Ⅲ 安心してこどもを生み育てることを支える

子育て支援サービスの充実が、安心して妊娠・出産・子育てできるまちの実現に直結するという意見が多く挙がった。サポートが不十分だと不安から出産をためらう人が増えるという危機感も表明された。また、安心して子どもを送り出せる学校環境の整備が登校意欲の向上につながるという意見も見られ、子育てしやすい環境づくりが少子化対策の根本だという意識が共通していた。

基本目標Ⅳ 困難な状況にあるこども・若者とその家族を支える

困難な状況にある人や家族を支えることで、誰もが平等に安心・安全に暮らせる環境が生まれるという意見が多く見られた。支援を通じて周りとの差をなくし平等に成長できる環境づくりが重要だという声が共通しており、ヤングケアラーへの支援強化を求める意見があった。

基本目標Ⅴ こども・若者とその家族を社会全体で支える

少子化の時代だからこそ、子育て世代への支援充実が必要だという意見が多く挙がった。補助の拡充や不安要素の解消が子育て世代の心の支えとなり、安心して子どもを産み育てられるまちの実現につながるという声が共通していた。また、道路整備や安全な遊び場の確保など生活環境の安全・安心が高まることで「住みたい」と思えるまちになるという意見も多く、安全・安心なまちづくりが定住意識の向上に直結するという意識が示された。

5. 参加者アンケートの結果

設問 1: ワークショップの感想（複数回答・n=28 想定）

項 目	件数	備考
楽しかった	26 件	最多
市に興味を持てた	16 件	
難しかった	3 件	
よくわからなかった	0 件	

「楽しかった」が最多、「市に興味を持てた」が多く、満足度の高い結果となった。
「難しかった」「よくわからなかった」が少数で、内容の伝わりやすさがうかがえる。

設問 2: 最も印象に残ったこと

カテゴリ	件数	主なキーワード
ガリバーマップという手法	11 件	大きな地図・視覚的・アナログ・移動しながら
他校生・初対面との対話	9 件	初対面・雰囲気・意見交流・他校の人
横手の未来・課題を考える時間	7 件	住みたいまち・アイデア・モヤモヤ・政策
多様な意見・新しい発想との出会い	3 件	自分にはない考え・確かに・面白かった

- ①ガリバーマップ（体験型手法）が最も印象に残ったという声が最多。「アナログで楽しい」「デジタルより面白い」など、身体を使って参加できる体験形の形式と、マップにまとめるという視覚的な整理のしやすさが好評だった。
- ②他校生・初対面の人との対話や意見交換も高評価。普段交わらない人と安心して話せた体験は、多様な視点との出会いとなり刺激になっている。
- ③横手の未来・課題を考える時間となった。行政データ（出生数 240人・5つの政策）への言及もあり、リアルな数字が当事者意識を引き出す効果になった。

設問 3: 自分の意見を話せたか（単一回答）

選択肢	件数	割合
話すことができた	21 件	約 75%
少し時間がかかったが話せた	6 件	約 21%
話しにくかった	1 件	約 4%

約 96%の参加者が「話せた」と回答。心理的安全性の高い場づくりが実現できて

いたことを示している。

設問 4: 今後の学びへの役立ち(単一回答)

選択肢	件数	割合
非常に役立つ	25 件	約 89%
少し役立つ	2 件	約 7%
あまり役立たない	1 件	約 4%
全く役立たない	0 件	0%

「非常に役立つ」が約 89%と高く、参加者が今回の体験を自分の学びとして捉えている。

設問 5: 気づきや学びに役立つか(自由回答)

カテゴリ	件数	主なキーワード
横手の課題・魅力・取り組みへの理解	10 件	地元を知る・政策・魅力・課題
当事者意識・主体性の芽生え	10 件	こどもの権利・声が届く・協力できる・がんばりたい
対話・思考の方法の習得	6 件	マック理論・問題→解決・話し合いの進め方
他校生との交流への満足・意欲	4 件	気軽に話せた・またやりたい・貴重な体験

- ①「横手市の課題・魅力・取り組みへの理解」が深まった。地元への関心と理解が広がったという声が多くみられた。
- ②こどもの声がまちづくりに関わるという実感や当事者意識が生まれた。「がんばりたい」「何かできないかな」という前向きな言葉が複数見られた。これは単なる体験で終わらず、行動意欲につながっていることを示している。
- ③「マック理論」など、思考の方法を学んだ。話し合いの進め方や思考の枠組みそのものを学んだという声や、また参加したいという交流への意欲も見られた。

6. まとめ

参加者の多くが、ガリバーマップを使った体験型の手法と、他校の生徒との対話・意見交換の場を高く評価しています。また、「こどもの権利」や「市の政策」を知ることで、自分たちがまちづくりの当事者であるという意識が育まれており、継続的な取り組みへの期待が感じられました。

今後は、教育委員会で毎年実施している Y8 サミットと連携するなど、関係各課室所と協力し合いながら、こどもの意見聴取に取り組みます。

また、今回いただいた意見をどのように政策に反映していくのか検討を重ねてまいります。